

小学校外国語「話すこと」と「自己調整学習」の評価のための教員研修 — 研修用動画の作成と活用 —

松井 孝彦* 松井 千代† 瀬瀬 将志†† 臼井 菜々子†† 都築 雄也†† 永田 眞子††

*教職実践講座

Teacher Training on Evaluation of Speaking Skill and Self-regulated Learning for English language Education in Elementary Schools: Development and Utilization of In-Service Training Video

Takahiko MATSUI*, Chiyo MATSUI†, Masashi KOUKETSU††,
Nanako USUI††, Yuya TSUZUKI††, Mako NAGATA††

* Department of Practitioners in Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

Keywords : 小学校英語 「話すこと」の評価 教員研修

2020 年度より小学校では新学習指導要領が施行される。それに伴い多くの研修が開催されており、小学校外国語に関してその内容は、教員の英語力向上、指導法、評価方法等のように多岐にわたっている。

これまでに筆者らも小学校外国語活動・外国語の研修を担当することがあったが、小学校教員の多くが評価の仕方が分からず、困っている姿を見てきた。そこで、「話すこと」の評価研修用動画を用いて評価に関する研修を行ったところ、小学校教員から好評を得ることができた。そして、英語を苦手とする教員から新たな要望を得ることができた。

本稿では、前述の新たな要望を踏まえて再構成した「話すこと（発表）」の研修用動画の作成と、それらを使用した教員研修の様子を報告する。また、従来の「関心・意欲・態度」の評価が新学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」となったことに伴い、「自らの学習を調整しようとする側面」の評価方法の具体化が必要となった。この評価の研修に用いるための動画及び教材作成についても報告をする。

I 外国語の評価に対する課題

1 「書くこと」テスト以外による評価方法の知識

多くの小学校教員が小学校外国語の評価について、どのように行えばよいか不安に思っている。例えば、玉城他（2017）では、2017 年に沖縄県公立小学校 92

校から得たアンケートの回答の中で、外国語の評価への不安があることが示されている¹⁾。

筆者らは、小学校外国語に関する研修の中で評価に中学校の定期テストのような記述問題を用いることは原則できないということを話した際に、聴衆者である小学校教員の驚きと困惑の反応を目にしたことが何度かあった。研修では、新学習指導要領の「書くこと」の目標には「大文字、小文字を活字体で書くことができる」ようにすること以外は、「書き写す」「例文を参考を書く」ことが設定されているのみであることを伝え、和文英訳問題等によるテストでの評価が原則できないことと共に、リスニングテスト、ポートフォリオ、スピーチやインタビュー等のパフォーマンス評価、行動観察による評価が可能であることを知らせるようにしている。

2 評価項目と評価基準

新学習指導要領では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の、資質・能力の三つの柱を基に、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点から評価をすることになっている。研修に参加をする小学校教諭の多くは、外国語に関してもこれらの観点で評価をすることは理解をしているものの、それぞれの観点について、どういった項目をどう

†愛知淑徳大学 Aichi Shukutoku University, Nagakute 480-1197, Japan

††大学院生 Graduate Student, Aichi University of Education, kariya 448-8542, Japan

いった基準で評価をすればよいか分からないようであった。

例えば、スピーチの「思考・判断・表現」の評価に対して、研修の中で「十分な理由を付け加えて自分の考えや気持ちを説明できれば A 評価とし、説明が十分ではない場合は B 評価とする」という基準を耳にしたことがあった。中学校の英語の評価においてこういった考えを聞くことはあったが、外国語の評価を初めてすることになる小学校教員には「十分」とはどの程度のものを指すのかが分からないようであった。

筆者らは、まず「思考力・判断力・表現力」について、学習指導要領には「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う」と示されていることを伝える。そして、「目的や状況」に応じて理由や説明をどの程度述べる必要があるかどうか、「場面や状況」に応じて必要な表現を忘れずに用いることができるかどうか（例えば、スピーチのはじめの挨拶等）を A 評価と B 評価を区別する視点として提示するようにしている。

II これまでの評価に関する教員研修の実態

1 研修用動画について

松井他（2018）において、金森（2010）で述べられている小学校外国語活動における学習指導要領と評価を関連付ける方法論²⁾と、筆者らが日頃の教育実践の中で使用していた資質・能力を評価するためのルーブリック（愛知教育大学附属名古屋中学校, 2008）を参考にし³⁾、評価基準を作成した。その後、その評価基準を基に、スピーチにおける各評価項目について A 評価か B 評価を判断するための研修用動画を作成した⁴⁾。

評価項目としては、筆者らによる検討の結果、以下のようなものを設定した⁵⁾。

〔知識及び技能〕

「音声」「語、連語及び慣用表現」

「文及び文構造」

〔思考力、判断力、表現力等〕

「テーマに対する必要な内容及び自分の考えや気持ち」

「言語の使用場面や言語の働きとして必要な表現」

〔学びに向かう力・人間性等〕

「声の大きさ」「話すスピード」「明瞭さ」

「アイコンタクト」

「ジェスチャー及び写真や絵の使用」

「既習の語彙や表現の使用」

次に、スピーチの発表場面で評価すべき項目を、「語、連語及び慣用表現」を除いた項目全てとし、準備をした上で発表をすることができるというスピーチの特性を考慮した上で、以下のような B 基準（「概ね満足できる」に該当する基準）を設定した⁶⁾。

表1 「話すこと（発表）」におけるB評価基準例

音声	音声にいくらかミスがある
文及び文構造	1つでもミスがある
考え・気持ち等	1つでも欠けている
使用場面・働き	1つでも欠けている
他者への配慮	配慮がないものがいくらかある

そして、小学校外国語教材「We Can! 2」Unit 7 の題材を用い、単元末のスピーチとして次の 1-1 及び 1-2 を考えた。

1-1 ※表 2 におけるパターン●-1 にあたるスピーチの原型

Hello, everyone. I'm Masa. My best memory is

表2 評価トレーニング用スピーチビデオの内容（松井他, 2018）

パターン	音声	文	文構造	考え・気持ち等	使用場面・働き	配慮	意図的操作
1-1	A	A	A	A	A	A	
1-2	A	A	A	A	A	A	
2-1	A	A	A	A	A	B	アイコンタクト×/小さめの声
2-2	A	A	A	A	A	B	早口/アイコンタクト×
3-1	B	A	A	A	A	A	すべてカタカナ読み
3-2	B	A	A	A	A	A	イントネーション×/区切り×
4-1	A	A	A	B	A	A	考え・気持ちの表現を抜く
4-2	A	A	A	B	A	A	考え・気持ちの表現を抜く
5-1	A	A	A	B	B	A	最初の挨拶を抜く/気持ちを抜く
5-2	A	A	A	B	B	A	最後の挨拶を抜く/気持ちを抜く
6-1	B	A	A	B	B	B	2-1, 3-1, 4, 5-1 全て
6-2	B	A	A	B	B	B	2-2, 3-2, 4, 5-2 全て

my club activities. I was a member of the basketball club. We practiced hard every day. It's my best memory. Thank you.

1-2 ※表 2 におけるパターン●-2 にあたるスピーチの原型

Hello, I'm Kouki. My best memory is my school trip. We went to the mountains. We enjoyed hiking. It was fun. Thank you.

これらについて、全て A 評価になるような模範的なスピーチとして録画をした動画をそれぞれ表 2 にある 1-1 及び 1-2 の動画とし、以後表 2 の「意図的操作」を行った動画を含め、計 12 本の動画を作成した。

2 研修における教員の様子と成果

教員研修では、まず評価項目と評価基準の確認を行った。その後、パターン 1-1 及び 1-2 の動画を再生し、全項目が A 評価となるスピーチについてイメージをもってもらった。そして、パターン 2 以降について、「個人」→「ペアまたはグループ」の順で評価を行い、最後に筆者ら研修講師からの解説を聞いてもらった。

研修に参加をした小学校教員は、パターン 2-1 及び 2-2 の段階で少々戸惑いを見せるものの、研修講師による解説を聞くことによって次第に講師の設定した評価結果を得ることができるようになっていった。そして、小学校教員からは、全項目が A 評価になるスピーチを示した後、一つずつ B 評価になるスピーチ例を示すという手順が分かりやすかったという感想を得ることができた。

しかし、「音声」の「標準的な発音」と「他者への配慮」の「声の大きさ」について、評価に困難を感じている教員がいることが分かった。また、「音声」に関して B 評価となるスピーチ例の一つずつ確認したいという要望を得た。

そこで、これらの課題や要望を受けて、新しい研修用動画を作成することを考えた。加えて、2019 年 6 月に国立教育政策研究所から示された「学習評価の在り方ハンドブック」⁷⁾に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法が掲載されたことを受けて、この点に関する評価用動画を作成することも考えた。

Ⅲ 2019 年度版研修用動画作成について

1 「話すこと（発表）」の評価のための研修用動画

2019 年 7 月 21 日に行われた第 19 回小学校英語教育学会の特別講演において、「知識・技能」の「音声(ア)現代の標準的な発音」を、評価はしないが授業内で指導をするということが新たに示された⁸⁾。これを受けて、2019 年 7 月 23 日に研修用動画を新たに作

成した。

「音声」に関しては、「(ア)現代の標準的な発音」に加えて「(イ)語と語の連結による音の変化」に関しても動画を作成しなかった。また、「(ウ)語や句、文における基本的な強勢」に関しても、その評価の難易度が高まることから、今回は動画の作成を見送った。さらに、「学びに向かう力・人間性等」の評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」となり、外国語特有の「他者に配慮」という視点がこの態度評価に含まれるかどうか、2019 年 7 月段階では未定であったため、この視点を含んだ研修用動画は作成しなかった。

以上を踏まえ、2019 年度の研修用動画を、“We Can! 2” Unit 9 の題材を用い、単元末のスピーチとして以下の 11 本分を作成した。

表 3 2019 年度用評価研修用動画の内容

パターン	評価	意図的操作
a-1	全て A	
b-1	全て A	
c-1	全て A	
d-1	全て A	
a-2	音声 B	(エ) イントネーション×
b-2	音声 B	(オ) 基本的な区切り×
c-2	文・文構造 B	(ア) 文 f 動名詞 ing × ※want to の to も×
a-3	考え・気持ち等 B	考えの理由がない
d-2	使用場面・働き B	はじめの挨拶がない
c-3	使用場面・働き B	最後の挨拶がない
c-4	文・文構造 B 使用場面・働き B	c-2 及び c-3 の両方を含むスピーチ

全てが A となるスピーチ例は以下のようなものとした。

a-1 ※表 3 におけるパターン a-●にあたるスピーチの原型

Hello. I'm Masashi. I like handball. I want to join the handball club. I like watching movies. So, I want to enjoy the drama festival. Thank you.

b-1 ※表 3 におけるパターン b-●にあたるスピーチの原型

Hi. I'm Mako. I like singing songs. So, I want to join the chorus. I like studying. I'm good at studying. So, I want to enjoy term tests. Thank you.

c-1 ※表 3 におけるパターン c-●にあたるスピーチの原型

Hi,. I'm Yuya. I like baseball very much. I want

to join the baseball club. I like singing. I can sing very well. So, I want to enjoy the musical festival. Thank you.

d-1 ※表 3 におけるパターン d-●にあたるスピーチの原型

Hello. I'm Nanako. I want to join the tennis team. I'm good at playing tennis. I like cooking. I can cook well. I want to enjoy the cooking contest. Thank you.

2 「自己調整学習」の評価のための研修用動画

新学習指導要領では、従来の「関心・意欲・態度」の評価が「主体的に学習に取り組む態度」となる。従来の評価が、授業内における継続的な行動や積極的な発言等、性格や行動面の傾向を評価されることが多かったことを払拭すべく、観点の名称を変更し「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価をすることが求められるようになった⁹⁾。

2019 年 6 月に筆者が行った教員研修の場で、「自らの学習を調整しようとする側面」の具体的な評価方法が分からないという声を多く聞き、その評価の研修に用いるための動画及び教材作成をする必要性があることが分かった。そこで、「学習評価の在り方ハンドブック」にも示されている「振り返り用紙」を活用した動画及び教材を作成することを考えた。

まず、“We Can! 2” Unit 9 の単元構成を考え、各 Part の最後にミニパフォーマンスを行う場を設定した(表 4)。そして、そのミニパフォーマンスの動画(表 5)と、そのミニパフォーマンスの内容について振り返る「振り返り用紙」の記入例が書かれた評価演習用シート(図 1)を作成した。

実際の教員研修では、

- ・動画 b-3 → 振り返り例 1 → 動画 b-1 (A 評価)
- ・動画 c-5 → 振り返り例 2 → 動画 c-2 (B 評価)
- ・動画 d-3 → 振り返り例 3 → 動画 d-1 (A 評価)

のようなトレーニングを行うことを想定した。

表 4 “We Can! 2” Unit 9 の単元構成

時	主な活動内容	ミニパフォーマンス
1-2	部活動について尋ねたり答えたりする。	2 限目最後：入部したい部活動について発表する
3-4	学校行事について尋ねたり答えたりする。	4 限目最後：楽しみたい学校行事について発表する
5-6	中学生のスピーチを聞いて小学校との違いを知る。	
7-8	中学校生活について入部したい部活動や楽しみな学校行事について自分のスピーチを書き、発表する。	

表 5 ミニパフォーマンス動画の内容

パターン	評価	意図的操作
b-3	文・文構造 B	(ア) 文 f 動名詞 ing ×
c-5	語・連語および慣用表現 B	want to の to を抜く
d-3	文・文構造 B	(ア) 文 f 動名詞 ing ×

“We Can! 2” Unit 9 第 3 観点評価演習

【例 1】

授業の最後でミニスピーチを行ったときにミスをした。

目標「入りたい部活動とその理由を話すことができる」に対して、今日の自分の発表はどうだったかを書きましょう。

「歌うのが好き」という言い方を間違えた。

発表をよりよくするために、今後どのような学習をしていくかを書きましょう。

I like singing って言えるようにしたい。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
評価	音声 語等、文・文構造	事実・考え・気持ち 使用場面・働き	調整

【例 2】 授業の最後でミニスピーチを行ったときにミスをした。

目標「入りたい部活動とその理由を話すことができる」に対して、今日の自分の発表はどうだったかを書きましょう。

何を言い忘れた

発表をよりよくするために、今後どのような学習をしていくかを書きましょう。

言いたいけど何を忘れないように言いたい

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
評価	音声 語等、文・文構造	事実・考え・気持ち 使用場面・働き	調整

【例 3】 前単元で「料理が好き」というところで cooking を言うことができなかった。ing を忘れないようにしたい」という振り返りをした。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
評価	音声 語等、文・文構造	事実・考え・気持ち 使用場面・働き	調整

図 1 振り返りに関する評価演習シート

IV 2019 年度教員研修について

1 教員研修の日程について

- ・日 時： 2019 年 7 月 29 日 9:00 - 12:00
- ・場 所： ライフポートとよはし
- ・参加者： 豊橋市立小中高等学校教員
- ・研修内容：

- ・小学校外国語活動・外国語の目標確認
- ・逆向き設計による単元末課題、単元構成、1 時間の授業構成の確認 (“We Can! 2” Unit 9)
- ・新学習指導要領と評価項目の確認
- ・評価演習(時間の関係上、単元末の評価演習のみ)

2 評価演習中の活動

評価演習の前に、評価項目の再確認と、それぞれの評価基準を確認した。

その後、パターン a-1 から d-1 までは視聴し、全ての項目が A 評価となるスピーチについて、そのイメージを把握してもらった。

次に、パターン a-2 以降の動画を再生し、以下の順

でスピーチの評価をしたり、各自の評価について確認してもらったりした。

[評価演習の順]

- ① 個人で評価
- ② ペアまたはグループで、それぞれの評価とその理由の確認
- ③ ペアまたはグループによる評価とその理由の決定
- ④ 一部のペアまたはグループによる発表
- ⑤ 筆者ら研修講師からの解説

3 評価演習における参加者の様子

パターン a-1 から d-1 までについては、全項目が A 評価になることについて納得をする様子が見られた。

パターン a-2 以降については、これまでの評価研修と同様、はじめの一つから二つ目の評価演習では難しそうな表情で個人評価を行ったり、ペアやグループでの話合いで注目すべき視点について熱心に学ぼうとしたりする姿が見られた。そういった姿も、演習が進む間に薄れていき、ペアやグループ内での評価が一致するようになっていった。

4 アンケート結果について

評価演習後、「評価 VTR に関するアンケート」を採った。アンケートは選択回答式と自由記述式とした。選択回答式の結果については表 6 のようになった。そして、自由記述式の中に書かれた「各項目の評価」に関わる意見としては、下の 7) から 11) のような意見が多く見られた。

表 6 「各評価項目について理解しやすかったかどうか」に関するアンケート結果 (n = 98)

項 目	は い	どちらでもない	いいえ
音声、文・文構造	94	4	0
思考・判断・表現	93	5	0

- 7) 比較的動画がたくさんあり分かりやすかった。
- 1) 実際に評価をする経験ができて、視点が定まってきました。
- 9) 例として極端で分かりやすかった。
- 5) 一つだけ B になることで視点が分かりやすくなっていたと思います。
- 11) 一つの、一定の基準のあるモデルを示していただけてよかった。現場の子どもたちに則して参考にしたい。

ペアやグループで評価をする形式については、次のような回答があった。

- 8) 評価には主観が入りがちです。他の先生と一緒にビデオを見ながら事前に評価のトレーニングをしておくことで、適切な評価ができると思います。
- 6) 客観的評価をするためにも、VTR で記録しておくことはとても重要だと思った。児童生徒本人のためにも、教員のためにも参考になる。

評価に関して難しさを感じた記述も、下記のようにいくつか見られた。

- 4) もう少し分かりやすいといいけれど、自分がまだまだ勉強不足だと思う
- 10) こちらもしっかり聞き取る耳をもたないと正確に評価してあげられないと感じた。
- 3) 小学校教員であるため英語が専門ではなく、私のように未熟な者には want と want to が聞き取れませんでした。
- 12) B 評価が二つあると、音声にも文にも注意をして聞かなければいけないので難しかった
- 13) 評価項目を覚えていなければ評価できないのですぐ分かる表を作成するとよいと思います。

動画に関して次のような要望を得ることもできた。

- 2) 実際の小中学生の VTR が作成できると、なおイメージしやすくなると思いました（難しいかと思いますが）。
- 7) はっきりと分かりやすくつくられていたので、評価はしやすかったと思います。しかし、これが自分の学校で行われるとなると、こんなにはっきりとは分からないと思います。そのため、トレーニング用も少しあいまいなものがあるとうれしいです。
- 14) 区切りが不自然な生徒より、区切りがない生徒のほうが多い気がするので、その辺の評価が気になった。

また、本研修に参加していた中学校と高等学校の教員からは、以下のような意見が得られた。

- 8) 区切りが不自然な生徒より、区切りがない生徒が多い気がするので、そのあたりの評価が気になった。
- 15) A 基準の評価がよく分かりました。「音声について評価しなくてもよい」が気になりました。
- 16) “I want to...” “I like singing ...” の to と ing が抜け落ちたことは確かに間違いです。しかし、「標準的な発音」や「リズム」を意識すると、むしろそれらの音はほとんど聞こえないことの方が natural かと思います。小学校のうちに speaking、listening に特化させるなら、その辺りのことでもできれば言及があると、中高での授業が楽になると

思います。

最後に、児童のパフォーマンスを録画して評価をすることにに対する不安について、以下のような意見が書かれていた。

- ㊦) 児童のスピーチを録画するといいなと思うが、毎回 VTR に取る時間がやはりとれるかどうか自信がない。小学生は次々スピーチするのが難しい。一人 20 秒～30 秒では流れないと思う。慣れれば出来るようになるのかな。

V 考察及び課題

新学習指導要領に施行を控え、新たに教科化される小学校外国語について、指導法のみならず評価に関する研修が各地で求められている。

今回の報告から、記述テスト以外による評価手段と具体的な評価方法を演習形式で研修することについては、小学校教員の評価に関する不安感の軽減にある程度の意義があるように思われる。児童のスピーチを評価する項目と評価基準の例、同僚と共に評価を行うという方法については、今後小学校教員の仕事となってしまうが、各教育現場にて応用されることが期待できるように思われる。そして、学校現場で実際にスピーチやインタビュー等のパフォーマンスを評価する機会を多くしていくことで、児童のパフォーマンスの力は向上していくと思われる。時間はかかるかもしれないが、児童の成長とともに短い時間で充実した内容のパフォーマンスが展開されるようになっていくと考える。

小学校教員の中には、研修用動画の視聴が自身の英語力向上について考えるきっかけとなった人もいたようであった。教員のための英語力向上に関する研修も各地で開催されているため、そういった機会を今後も生かしていただければと考える。

今後、このような研修を行う際の課題としては、以下のような点があると考えます。今後これらを含めた研修用動画についてあらためて考え、作成していきたい。

- ・ 実際の小学生のパフォーマンスによる動画
- ・ 中高を見越した、音声面に関するより詳細な評価基準例及び動画作成

引用・参考文献

- 1) 玉城光師・ブレット・シンタニ・上江洲育子・具志堅惣敏 (2017) 「小学校外国語の研究—新教科「外国語」のスムーズな導入に向けて—」, http://www.edu-c.open.ed.jp/tyosa/shougakuEng_houkokusho.pdf (参照日：2019 年 12 月 1 日)
- 2) 金森強 (2010) 「小学校「外国語活動」の評価のあり方を考える」, 『ARCLE REVIEW』No.4,

103-117.

- 3) 愛知教育大学附属名古屋中学校 (2008) 「英語科のルーブリック」, 『研究紀要 子どもの知を拓く授業の創造—思考を働かせることを通して—』第 50 集, 182.
- 4) 松井孝彦・松井千代・杉浦正成・白鳥晃紀・瀬瀬将志 (2018) 「小学校外国語「話す」領域における評価のための教員研修用ビデオの作成と試行」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要 vol.3, 53-58.
- 5) 前掲 4)
- 6) 前掲 4)
- 7) 国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック (小・中学校編)」https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf (参照日：2019 年 12 月 1 日)
- 8) 直山木綿子 (2019) 「新学習指導要領全面実施に向けて、指導と評価の在り方について考える」, 第 19 回小学校英語教育学会北海道大会, 2019 年 7 月 22 日.
- 9) 前掲 7)